

自昭和十六年十月十一日
至昭和十六年十月十八日

戰時旬報(第十一號)

第六師團司令部

第一 青浦ノ攻撃及蘇州河ニ向フ追撃
 第二 蘇州河畔ノ戦闘及崑山ニ向フ追撃
 第三 崑山附近ノ攻撃
 第四 師團ノ兵力集結及嘉興方面ニ向フ轉進
 第五 雜件
 別紙
 第一 第三第四項ノ別紙
 第二 轉進ニ當リ師團長ノ訓示
 附表 上陸並ニ追撃作戰ニ於ケル彼我損傷一覽表
 附圖

第一 第六師團青浦ヨリ蘇州ニ向フ追撃要圖
 第二 第六師團崑山附近敵陣地攻撃要圖

第一青浦ノ攻撃及蘇州河ニ向テ追撃（附圖第二）

一前兵（歩兵第四十七聯隊長ノ指揮スルニ大隊）八十日朝
青浦東南地区ニ進出シ直ニ一部ヲ以テ上海―青浦
道及其ノ南側運河ヲ遮断セシメ主力ハ北周家埭
附近ニ展開シ青浦ノ攻撃ヲ準備ス

然ルニ上海―青浦道及其ノ南側運河ヲ退却セル敵
ハ陸續タル大縱隊ニシテ重輕機ヲ配列シ我右側ヲ
制壓シツ、道路北側地区ヲ青浦ニ向ヒ正午ヨリ目
没ニ至ル間續々退却シ其ノ數何万タルヲ知ラス
我ハ之ニ對シ猛射ヲ浴セ多大ノ損害ヲ與ヘタルモ砲
兵ヲ有セサルト運河ノ障礙アル爲完全ニ之ヲ捕捉
シ得サリシヲ遺憾トス

二、追撃隊ハ十日夕青浦南側地区ニ到着シ直ケニ徐家浜及其西側地区ニ進出シ青浦ノ攻撃ヲ準備ス
三、師團長ハ十日一五〇〇頃午頭涇附近ニ到リ全般ノ状況ヲ觀察シ左ノ如ク部署ス

一、直ケニ歩兵一大隊ヲ阿洋滩附近ニ急派シ上海道ノ

遮断ニ仕ス

二、歩兵第四十七聯隊ハ右翼隊トナリ青浦ヲ西面攻撃

三、追撃隊(歩兵第三十六旅團長ノ指揮スル歩兵第十三

聯隊ノ一大隊及歩兵第二十三聯隊ノ二大隊)ハ青浦ヲ

北面攻撃ス

四、攻撃開始ハ十一日拂曉トス

四、十日夜第一線ハ青浦外側陣地ノ敵ヲ撃破シ夜半

青浦外壕ノ綫ニ進出シ城壁ニ對スル攻撃ヲ準備ス
五、阿洋灘ニ派遣セル歩兵第十三聯隊ノ一大隊ハ北周家
埭北方運河ノ綫ニ達シ右翼隊ノ右翼ニ連絡シ得タル
モ遂ニ運河ヲ越ヘ北岸ニ進出シ本道ヲ遮断スルニ
至ラサリシヲ遺憾トス

六、西翼隊ハ拂曉ヨリ城壁ノ攻撃ヲ開始シ右翼隊ハ〇五
〇〇前後、左翼隊ハ〇六〇〇前後各々東門及南門
附近ヲ攻略シ爾後城内ノ掃蕩ヲ實施ス

七、師團長ハ〇八〇〇東門ニ到リ以上ノ状況ヲ知り一部
（一中隊）ヲ以テ青浦ヲ守備シ上海―青浦道ヲ遮
断セシメ歩兵第十三聯隊（第三大隊欠）ヲ追撃隊トシテ
三家村（安亭西北方四料）ニ向ヒ追撃セシメ主力ハ青浦

―安亭道ヲ蘇州河ノ線ニ向ヒ前進ス
又別ニ歩兵第四十五聯隊長ノ指揮スル三中隊ヲ水上
挺進隊トシ白鶴港鎮ニ向ヒ追撃セシム

ハ追撃隊ハ追撃間各所ニ於テ退却スル敵ニ追及シ之
ヲ撃滅シ亦主力ハ退路ヲ遮断セラレ西北方ニ向ヒ
潰走スル敵ヲ隨所ニ撃滅シツハ十一日夜概ニ豫定ノ
線ニ進出セリ

九敵ハ青浦、白鶴港鎮間 四ヶ所ノ橋梁ヲ破壊シアリテ
工兵ヲシテ逐次補修ナサシム

十青浦附近ノ戦闘及爾後ノ追撃ニ於テ敵ニ與ヘタル
損害ハ遺棄死体三、〇〇〇ヲ越ヘ自動車二〇〇、砲八
門其他多数ノ兵器アリシモ特ニ敵ノ精神上及指

揮統制上與ハタル影響ハ多大ナルモノト信ス

第二 蘇州河畔ノ戦闘及崑山ニ向フ追撃

一 追撃隊タル歩兵第十三旅隊ハ十一日日没江浦ニ於テ敵ノ不意ヲ急襲シ蘇州河ヲ渡河シ二三〇〇徐公橋鎮附近ニ達セシ時敵ノ自動車混セル一縦隊安亭―崑山道ヲ西進中ナルヲ知り直チニ第七中隊ヲ以テ縦隊ノ先頭ヲ遮断シ爾余ヲ道路ノ南側ニ展開シ一舉急襲的猛射ヲ浴セ數十人ニシテ之ヲ殲滅セリ爾後約一時間ヲ間シテ退却スルニ箇ノ縦隊ヲ同一位置同一態勢ニ於テ撃滅セリ

敵ノ一部ハ負傷者及死体ヲ携行シ北方ニ遁走シタルモ大部ハ戰場ニ潰滅シ遺棄死体三〇〇〇ニ

及ヘリ

本戦闘ニ於テ第七中隊ハ左記軍旗ニ旒ヲ奪取セリ
一、陸軍第十八師歩兵第五十二旅第百三團

二、陸軍第百六十師第四百八十一旅第百五十八團

尚其ノ他陸軍少將ニ名ヲ斃シ軍命令以下各種重

要書類ヲ押收セリ 書類ヲ判断シ此ノ敵ハ高等

司令部ナルコト確實ニシテ第十五集團司令部ナラ

ント判断ス

二、師團主力前衛ハ十一月夕白鶴港鎮附近ニ於テ東方

ヨリ水路退却シ来ル敵ト遭遇シ之レニ徹底的打撃

ヲ與ヘ東方及北方ニ潰走セシメタル後敗敵ヲ驅逐シ

ツ白鶴港鎮北側蘇州河ノ線ニ達シ爾後ノ渡河ヲ準

備ス

又水上挺進隊ハ宋家村附近ニ達シ渡河ノ爲敵情地
形ヲ偵察ス

師團主力ハ白鷺港鎮ニ兵力ヲ集結ス

三、蘇州河北岸ニハ掩蓋ヲ有スル既設陣地アリテ抵抗
頑強ナリ

師團長ハ全般ノ状況上一刻モ速ニ安亭附近ニ進
出ヲ要スルヲ以テ十二日拂曉ヨリ歩兵第十一旅團長
ヲ以テ前衛並歩兵第四十七聯隊主力ヲ指揮シ強行
渡河攻撃ヲ實施セシメ水上挺進隊ハ宋家村方面ヨリ
渡河攻撃ヲ實施セシム

又歩兵第三十六旅團長ヲシテ歩兵第三十三聯隊主力ヲ

指揮シ白鶴港鎮附近ニ位置シテ東方ニ對シ水陸交通路ヲ遮斷セシム

四、對岸ノ敵ハ頑強ニ抵抗シタルモ左翼方面ニ於ケル渡河成功スルニ及ヒ遂ニ全線退却ヲ開始シ旅團ハ一舉之ヲ急追シ安亭ヲ占領セリ

五、此ノ日(十月十五日)方面軍命令ニ依リ師團ハ一時第十軍ノ指揮ヲ脱シ上海派遣軍ノ隸下ニ入レリ

六、師團ハ同夜安亭附近ニ集結シ敵ノ退路遮斷ニ努メタル爲蘇州河兩岸ノ敵ハ漸次進路ヲ西北方太倉方向ニ轉シ退却中ニシテ上海派遣軍ハ尚羅店鎮南翔及其ノ南方地区ニアルヲ知ル

七、十月十二日師團長ハ全般ノ狀況特ニ敵ノ退却狀況ニ

鑑ミ退ニ退路ノ要スル太倉附近ニ進出シ敵ヲ捕
提殲滅スルノ有利ナルヲ判断シ正ニ之カ部署ヲナサ
ントスル時軍命令ヲ受領シ師團ノ追撃目標ヲ崑山
ト指定セラル

八師團ハ軍命令ニ基キ直テニ歩兵第十一旅團(歩兵
第四十七聯隊欠)ヲ前衛トシ爾余ヲ本隊トシ崑山
ニ向ヒ前進ス

別ニ歩兵第四十七聯隊長ノ指揮スルニ大隊ヲ安亭
ニ残置シ依然安亭交通路ノ遮断ニ任セシム

九、前衛ハ候涇附近及白王廟附近ニ於テ抵抗スル敵ヲ
駆逐シツ、十三日日没頃史弟壟附近運河橋梁ニ達ス
然ルニ運河對岸ニハ掩蓋銃座「ト」ケカ式銃座ヲ

有スル數線ノ既設陣地アリ 崑山附近ニ若干砲兵
及迫撃砲陣地ヲ占領シアリ

第三 崑山附近ノ攻撃

一、前衛司令官ハ陣地相當ニ堅固ナルヲ知リ明拂曉ヨ
リ攻撃ニ決セシモ勇敢ナル尖兵長ハ本道上ノ橋梁
煉焼中ニシテ速ニ之ヲ突破シ對岸ニ地步ヲ獲
得セハ爾後ニ於ケル攻撃極メテ有利ナルモノト判断シ
敵ノ十字火ヲ侵シ奮然對岸ニ突入シ其ノ第一線
ヲ占領セリ 中隊長又續テ前進シ遂ニ橋梁ヲ確
保シ得タルモ對岸十字火並水壕ノ爲戰況進展セス
爾後逐次兵力ヲ増加シ拂曉迄ニ約四中隊ヲ前岸ニ
進出セシメ戰果ノ擴張ニ努ム

二師團長ハ本朝重藤支隊白茆口附近ニ上陸シ既ニ
太倉―常熟道ヲ遮断シ該方面ニ退却中ノ敵モ逐
次太倉―崑山道ニ退路ヲ变换シ同街道上ニ敵兵
充満シアリ崑山陣地ハ之ヲ退却收容ノ爲頑強ニ抵抗
却スヘキヲ判断シ步兵第三十六旅團長ヲシテ步兵第
二十三聯隊及步兵第四十五聯隊(二大隊欠)ヲ指揮シ毛
庄附近ヨリ敵ノ右側背ニ攻撃セシメ步兵第四十七聯
隊ノ二中隊ヲシテ水路敵ノ背後ニ行動セシメ一舉崑
山ノ攻略ヲ企圖セリ
三然ルニ舟ノ集收意ノ如クナラス步兵第三十六旅團ノ
渡河又遲延シ且第一線ノ彈藥漸ク缺乏スルニ至リ
戰況意ノ如ク進展セス

四十三日一六〇〇頃上海ヨリ特ニ補給セラレタル彈藥逐次
到着スルニ及ヒ第一線ハ漸次活氣ヲ呈シ左翼隊ノ
一六三〇ニ實施セシ渡河成功スルニ及ヒ敵線次第ニ
動揺ヲ初メ同夜ニ一〇遂ニ第一線ヨリ崩壊スルニ
至レリ

五師團長ハ直ケニ蘇州方向ニ敵ヲ追撃スルニ決シ歩兵
第十一旅團(歩兵第四十七聯隊欠)ヲ以テ追撃隊トナシ
蘇州ニ向ヒ急進セシメ爾余ヲ崑山西南地区ニ集結セシム
六、此ノ頃第九師團先頭部隊ハ逐次崑山附近ニ進出ス
七、然ルニ敵ハ崑山西側地区ニ設置セル既設陣地ニ據リ
更ニ頑強ナル抵抗ヲ重ネ右翼方面ニ於テハ一時逆襲
ヲ實施スル等尚頑強ナル抵抗ヲナセルヲ以テ師團長

ハ追撃隊ヲシテ當面ノ敵ヲ攻撃セシメ、新ニ歩兵第三十
六旅團ヲ追撃隊トシテ、鐵道南側地区ヨリ蘇州ニ向ヒ
追撃セシム

八、旧追撃隊ハ夜ニ入ルモ攻撃ヲ續行シニ四〇〇。遂ニ當面
ノ敵ヲ撃退シ、全線正ニ追撃ニ移ラントスル時、軍命令
ニ依リ正面ヲ第九師團ニ壞リ、師團ハ兵力ヲ崑山附
近ニ集結スルニ決ス

九、本戦闘ニ於テ我ト交戦セシ敵ハ約一師ニシテ死体一
〇〇ヲ残シ、西方ニ潰走セシモ之レカ爲遂ニ太倉―
崑山道退却中ノ敵ヲ捕捉シ得サリシハ甚ク遺憾ト
スル所ナリ

我損害ハ戦死約四〇。負傷一〇〇。

五、諸諜報特ニ崑山市内ニ於ケル敵ノ遺棄物件等ヨリ
判断シ敵ノ崑山ヲ通過シ退却セル師團號ハ左ノ如ク
十七ヶ師ニ及ヘリ

6	D
16	D
18	D
53	D
55	D
57	D
58	D
61	D
62	D
67	D
88	D
102	D
108	D
151	D
159	D
160	D
166	D

敵ハ崑山東側ニ於テ抵抗シタル後更ニ其ノ西側ニ於テ
相當頑強ナル抵抗ヲナシタルモ其ノ退却状態ヨリ判
断シ蘇州以東ニ於テ組織的ニ大ナル抵抗ヲナスカ如
キコトナカルヘシ

第四師團ノ兵力集結及嘉興方面ニ向テ轉進
一十月十六日夕上海派遣軍司令官ヨリ現在地附近ニ
兵力ヲ集結シ第十軍ニ復歸ノ準備ヲ爲スヘキ命

令ヲ受領シ師團長ハ直ケニ追撃隊ヲ十五連附近ニ
停止セシメ爾余ノ主力ヲ崑山及其ノ南側地区ニ集結セ
リ

二師團長ハ第十軍復歸ニ當リテハ軍隊志氣ノ關係並ニ
復歸後一般ノ態勢上蘇州方面ヨリ平望鎮方面ニ轉
進スルヲ有利ト認メ上海派遣軍及第十軍ニ意見ヲ
具申スル所アリ

然ルニ同夜ニ三〇〇丁集作命甲第二十七號ニヨリ青
浦―松江―勝家浜―松隱鎮ヲ經テ嘉善ニ向ヒ轉
進スルノ命令ヲ受領ス

三師團ハ十七日依然現在地ニ在リテ轉進準備裝備ノ
充實ヲ圖リ十八日出發別紙計画ヲ以テ軍主力方面

ニ轉進ヲ開始セリ

四、轉進ニ方リ師團長ノ隷下將兵ニ下セル訓示別紙ノ如シ

第五 雜件

一、師團ハ本追撃作戰ニ於テ金山衛城上陸以來砲兵並
聯隊砲ヲ缺キ全ク歩兵ノミノ戰闘ヲ遂行セリ

青浦附近ニ於テ第十軍ヨリ又安亭附近ニ於テ

上海派遣軍ヨリ重砲ノ配屬ヲ受ケタルモ遂ニ最後迄

掌握スルニ至ラス

二、彈藥ハ上陸ノ際特ニ小行李彈藥ヲ各自携行前進

シタル爲安亭附近迄補給ヲ受クルトナク数次ノ戰闘

ヲ遂行シ得タルモ崑山附近ニ於テ漸ク不足ヲ感シ上

海ヨリ補給ヲ受クルニ至レリ

0154

三、糧秣ハ出発ノ際携帶口糧ヲ携行セシメミニシテ亦爾後ノ
補給絶無ニシテ當初ハ地方物資ニ據リシモ蘇州河
以北ニ於テハ支那軍ノ掠奪甚シク給養上困難ヲ感
スルモノアリ

四、追撃ニ方リ屢々水路ヲ利用シテ行動シタルモ地方舟僅
クナルト汽艇ナキ爲メ機動力大ナラサルヲ以テ充分
ナル威力ヲ發揮シ得サリキ

五、通信連絡ハ概ネ順調ニ實施シ得タルモ指揮系統ノ更
換時ニ於テ中絶シ甚シク不便ヲ生セリ

六、本作戦ニ於テ生シタル彼我ノ損害別表ノ如ク作戰経過
附圖第一、ニノ如シ

上陸並追撃作戦ニ於ケル彼我損害一覽表					
戦斗名	日時	主トシテ戦斗セル部隊	受ケタル損傷	交戦セル敵兵力	戦場遺棄死体
金山衛城	5/11	歩兵第1旅團 國崎支隊	戦死 一七 戦傷 三九	620ノ約 二、五〇〇	約 一、〇〇〇
松江ニ向フ前進間ノ戦闘	7/11	歩兵第1旅團 國崎支隊	戦死 二 戦傷 三〇	620ノ約 790ノ約 其他約 四、〇〇〇	約 一、五〇〇
松江攻撃	9-10/11	歩兵第1旅團 國崎支隊	戦死 二六 戦傷 一三五	約 一〇、〇〇〇	約 三、〇〇〇
青浦ニ向フ追撃	9-10/11	師團主力 (四五ノ三隊及 三ノ二隊欠)	戦死 二二 戦傷 四五	約 一五、〇〇〇	約 四、〇〇〇
青浦附近ノ攻撃 及蘇州河ニ向フ追撃	10-12/11	右 同	戦死 七三 戦傷 二〇七	約 四〇、〇〇〇	約 三五〇〇 軍旗 二ヶ所

九

0156

備考 一、本表中敵ノ死体ハ戦場ニ於テ目撃セシ概数ナリ 二、本表ノ外自動車約三〇〇、野山砲二〇門其他多数ノ兵器彈藥ヲ押收セリ	合計		崑山ニ向フ追撃及崑山附近ノ戦斗	
			13-15/11	
			右同	
	戦死	戦死	戦死	戦死
	戦傷	戦傷	戦傷	戦傷
	約 八二、五〇〇	約 一四、五〇〇	約 一〇、〇〇〇	約 二、五〇〇

別紙第一 (第四ノ第三項)

六師任命甲第百十九號別紙

軍隊區分

第一梯團

長 坂井少將

師團司令部

歩兵第十一旅團 (歩兵第十三聯隊又)

師團通信隊

軍無線電信小隊

工兵第六聯隊本部及工兵小隊

第二梯團

長 岡本大佐

第三梯團

歩兵第十三聯隊（一小隊）

長 牛島 少將

歩兵第三十六旅團

衛生隊

第二野戰病院

水上部隊

長 工兵第六聯隊 中田 大尉

独立山砲兵中隊

工兵第六聯隊ノ一中隊

歩兵漕舟約六〇

掩護小隊 歩兵第十三聯隊ノ一小隊

師團無線一機

六師作命甲第六十九號

第六師團命令

於崑山師團司令部
十月十七日一二三〇

- 一、師團ハ第十軍ニ復歸ノ爲嘉善ニ向ヒ前進セントス
- 二、各部隊ハ別紙行軍計画ニ基キ嘉善ニ向ヒ前進スヘシ
- 三、歩兵第十一旅團長ハ漕午六。名（下士官ニラ附ス）及
掩護小隊一小隊ヲ十月十七日午後二時迄ニ工兵第
六聯隊長ノ許ニ差出シ水上部隊編成要員タラシムヘシ
- 無線一ヲ屬ス

四、行軍間ノ給養ハ左ノ如ク實施スヘシ

人出發前携帶糧秣人糧甲及馬糧各二百分ヲ裝備ス

右糧秣ハ崑山東南端師團糧秣交付所ニ於テ交付ス

2. 給養ハ前記携帶糧秣及地方物資ヲ使用ス
3. 携帶糧秣ノ補充ハ松江南端附近ニ於テ實施スル予定
五、海老原少佐ハ機工長以下若干ノ自動車運轉兵ヲ
伴ヒ車行シ自動車及燃料ノ蒐集ニ任スヘシ

師團長 谷 中 將

下達法
先ツ要旨ヲ傳ヘ後印刷セルモノヲ交付ス

0161

行軍計画

一進路

崑山—安亭—青浦—佘山鎮—廣富林鎮—
松江—勝家浜—松蔭鎮—金山—楓涇鎮—

嘉善通

二宿营地

第一梯團	十月十八日	施紀浜 沈平附近	十月十九日	大場鎮附近	十月二十日	金山西方地区	十月二十一日	嘉善
第二梯團	白鶴港鎮	廣富林鎮	金山東方地区	嘉善				
第三梯團	陈公橋鎮	陳坊橋鎮	王家浜 松蔭鎮附近	楓涇鎮及 其西方地区	嘉善			

水上部隊

崑山―青浦―松江―金山―嘉善水路ヲ前
進シ十月二十日迄ニ嘉善ニ到着

但要地通過ニ際シテハ陸上部隊トノ連絡ニ努ム
ハキモノトス

三、出發時刻及休憩

1. 毎日〇八〇〇概テ宿營地前端出發

2. 大休止ハ前行部隊ノ狀況ヲ顧慮シ正午頃約一時間

トス

四、師團長ノ行動

師團長ハ第四日(十月二十日)金山軍司令部ニ先行
スル外概テ第一梯團ト行動ヲ共ニス

0163

別紙第二轉進ニ當リ師團長ノ訓示

訓示

曩ニ北支ニ於テ赫々タル戰勝ヲ博セル我第六師團ハ海上機動ノ後去ル十月五日拂曉靄霧ヲ衝イテ金山衛城西方海岸ニ敵前上陸シ未曾有ノ奏効以來フリークノ地帯ノ惡路及大河ノ障礙ヲ突破克服シテ敵ヲ擊滅北進シ松江附近敵陣ノ背後ニ一舉に進出シ上海戰線包圍陣ノ完成ニ成功セリ

其ノ結果ハ敵ノ大脅威トナリ遂ニ敵總退却ノ端緒ヲラシメタルノミナラス師團ハ直ニ機ヲ見テ突進又突進青浦次テ三家村ト逐次ニ敵ノ退路上ノ要點ニ出テ隨所ニ退却シ来ル數方ノ敵軍ヲ擊滅シテ軍旗ニタカ

奪ヒ一將官ヲ斃セル外多數ノ兵器彈藥自動車ヲ鹵
獲スル等敵ニ徹底的打撃ヲ與ヘ更ニ猛追崑山ノ堅
壘ヲ陷レ將ニ蘇州ニ向ハントスル時軍命令ニ梅シ南
轉三度新戰場ニ向ハントス
之ヲ要スルニ上陸戰闘以來我師團ノ行動ハ實ニ神速
果敢機宜ニ適シタル結果、中支那方面軍司令官及
第十軍司令官ヨリ賞詞ヲ附與セラル、ノ榮譽ヲ擔ヘリ
之偏ニ團下將兵カ北支作戰ノ體驗ト曩ニ與ヘタル訓
示ニ於ケル以死必勝ノ信念ヲ以テ勇戰奮闘九州健兒
ノ本領ヲ發揮セル所以ニシテ眞ニ同慶ニ堪ヘス大ニ
諸子ノ勞ヲ多トスルト共ニ新戰場ニ於テハ更ニ勇躍
奮戰益々皇軍ノ精華ヲ發揮センコトヲ要望ス

敘上ノ赫々タル榮譽ノ反面戰勝ノ先驅者トシテ
壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ケ或ハ傷ヲ負ヒタル將兵ニ
對シテハ眞ニ同情ニ堪ヘス其ノ英靈ニ對シ深ク
哀悼ノ意ヲ表スルト共ニ戰傷者ノ一日モ速ニ快癒セ
ラレシコトヲ諸子ト共ニ祈願シテ已マス
右訓示ス

昭和十二年十月十七日

第六師團長 谷壽夫

賞詞第一

松江攻撃ニ當リ受ケタル賞詞(軍司令官)

十月十日

丁集團司令官

第六師團長殿

貴師團ハ周到ナル計畫ト果敢ナル断行ト
依リ困難ナル上陸戦闘ニ空前ノ大成功ヲ
收メ次イテ地形ノ不良ト補給ノ困難トヲ克
服シテ敢爲前進遂ニ上陸後僅カニ五日ニ
シテ集團ノ第一期作戰ノ目標タル松江ヲ占
領シ以テ蘇州河附近ノ敵ヲシテ崩壊ノ已ム
ナキニ至ラシメタル功績洵ニ顯著ニシテ深ク

其ノ勞ヲ多トス

0168

賞詞第二

上海軍司令官ノ隷下ニ入ル時受ケタル賞詞

貴師團ハ先ニ困難ナル上陸作戰ニ成功シ功績ハ誠ニ顯著ニシテ其ノ業跡タルヤ戰功稀ニ見ル所ナリト云フヘシ

續テ地形ト補給ノ困難ヲ排シテ眞ニ迅速果敢ナル作戰ヲ遂行シ一舉ニシテ蘇州河左岸地区ニ達シ集團ノ任務達成ニ貢獻シタリ

師團ハ今ヤ赫々タル武勲ヲ残シテ一時集團ノ指揮ヲ脱シ上海派遣軍ノ指揮ニ入ル事

トナレリ此ノ時ニ方リ師團ノ從來ニ於ケル功
績ノ特ニ顯著ナルヲ認メテ感謝ノ辞トナシ
併セテ武運ノ愈々長久ナラシムトヲ祈ル

十月十三日

丁集團司令官

0170

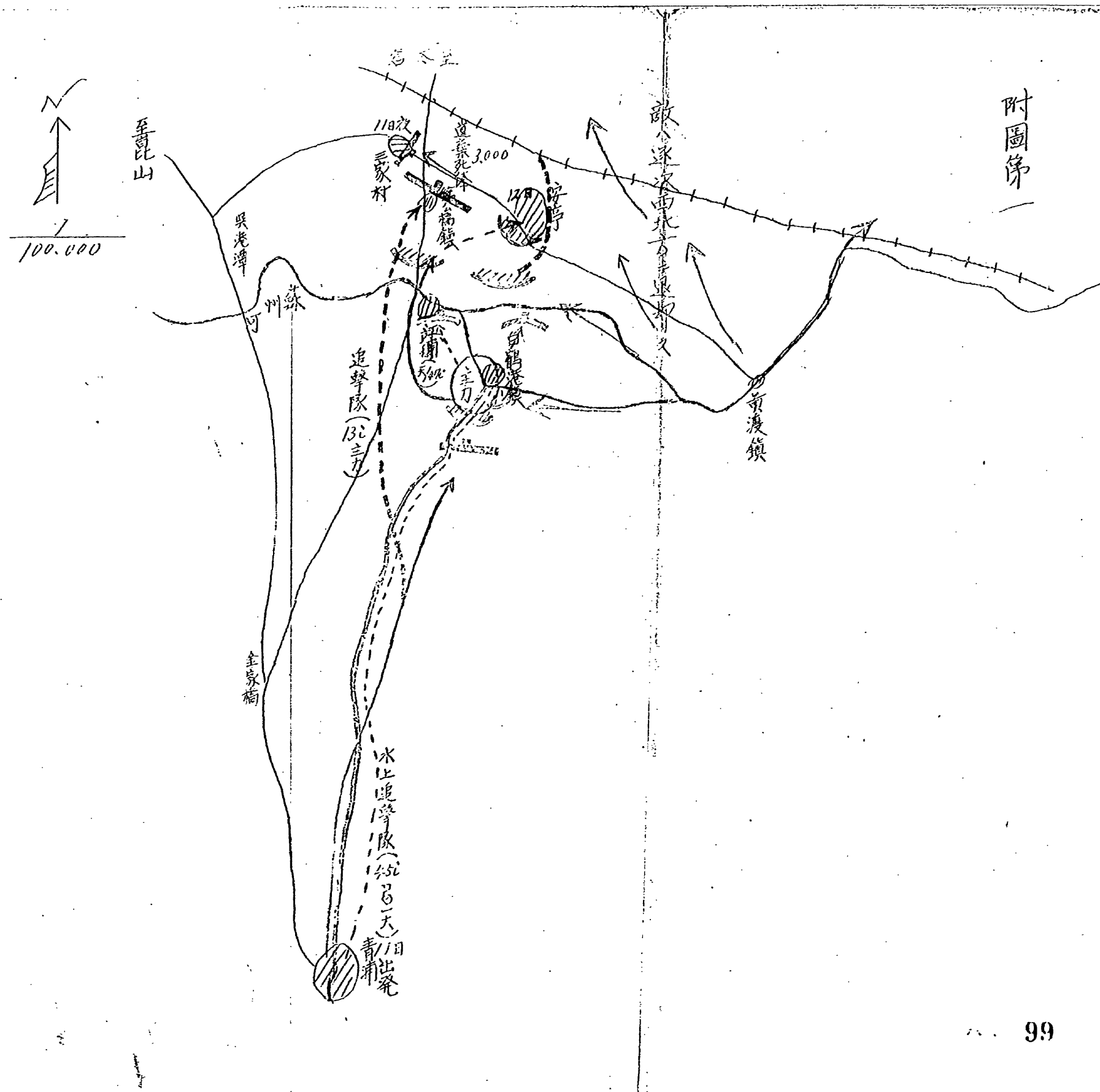
賞詞第三

崑山占領ノ際方面軍司令官ヨリ受ケタル賞詞

第六師團ハ上陸以來困苦缺乏ニ堪エ克ク
神速ナル機動ヲ遂行シ上海封鎖ノ完成並
方面軍主力崑山附近快勝ノ端緒ヲ與ヘタリ
更ニ本朝崑山占領ノ報ニ接シ大ニ其ノ力戰
奮闘ヲ欣ク

昭和十二年十月十五日

中支那方面軍司令官 松井石根



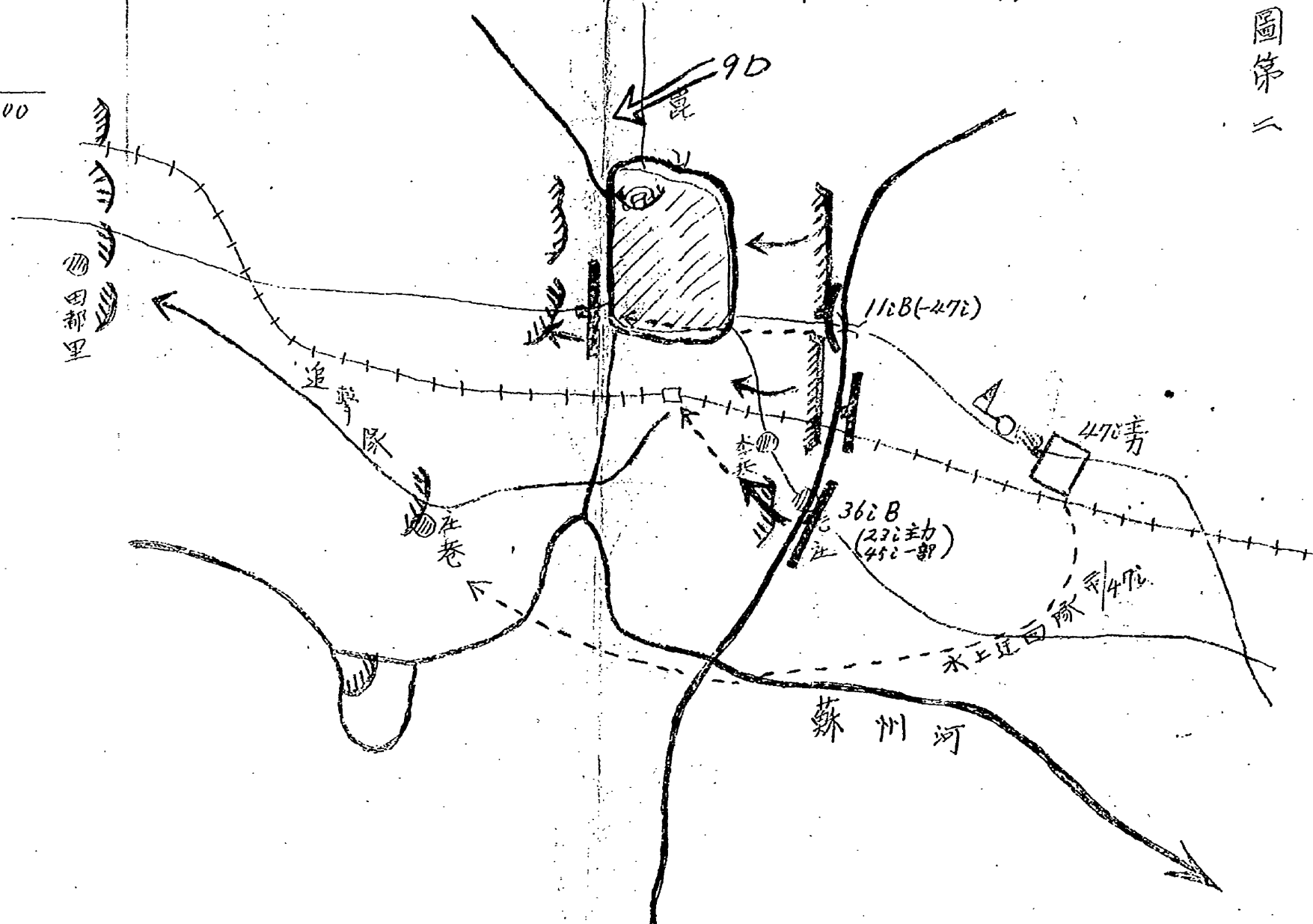
附圖第

第六師團青浦ヨリ蘇州河ニ向フ追撃
(至自十月十日)

圖要擊攻地陣敵近附山崑團師六第
(日五十月一十至日三十月一十於)

附圖第二

7
50,000



100

0173